

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立三勲小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒703-8291 岡山県岡山市中区徳吉町一丁目 1-21
E-mail sankuns@city-okayama.ed.jp
Website http://www.city-okayama.ed.jp/~sankuns/
幼児児童生徒数 男子 316 名 女子 269 名 合計 585 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校では、ふるさと岡山や三勲学区の“人・自然・文化”を題材とした学習に継続して取り組み、地域の環境問題や人権問題、歴史や文化について学習を深めている。6年生になると、学区に隣接する岡山後樂園の能舞台上で、日本の伝統文化であり、ユネスコの無形文化遺産に登録されている能楽の発表会を開催する。本年度で17年目を迎えるイベントであり、地域の文化財を守る意識とともに、伝統文化を継承する担い手を育てる機会となっている。このような学習を通して、ふるさとを誇りに思いふるさとを愛する心を育むとともに、自ら課題を見つけ、追求し、解決していこうとする主体的な思考力や判断力を養ってきている。

これらの学習を継続し発展させることで、「地域の文化を持続可能なものにするための担い手づくり」をテーマに三勲 ESD プロジェクトとして実践していく。

① 伝統文化に関する活動

第1学年「みんないっしょに」

家族にたずねた「昔からの遊び」に挑戦し、児童は昔からの遊びをもっと上手になりたいという思いをもった。地域の方に教えてもらい、何度も繰り返し練習し、昔からの遊びが上手にできるようになった。再度地域の方といっしょに遊んだり、感謝の気持ちを伝え

たりしてふれあった。さらに、教えてもらったことやできるようになったことを幼稚園児に優しく教えようという気持ちを持ち、「むかしあそびランド」を開いた。

第6学年「能学習 伝統文化をさぐるう」

「ふるさと学習」のまとめに当たる第6学年では、学区に隣接する歴史ある岡山後楽園の能舞台で、日本の伝統文化である能の発表会を開催する能学習に取り組む。

4～5月は能楽について調べ、6月から能楽師を講師に招き、実技を伴う「能学習」に取り組む。11月に岡山後楽園の能舞台で発表する。2月に学習のまとめを学校HPにて地域に発信する。

② 地域の文化財に関する活動

第2学年「町をたんけん、大はっけん」

東山公園のまわりを地域の方と一緒に探検した。地域についてもっと知りたくなり、もう一度探検に行く計画を立てた。探検するところを決め、グループでインタビューすることや見学することを考えた。探検を通して、東山公園の周りだけでなく自分たちの家の周りにも素敵なものがあり、素敵な人がいることに気づき、友達に紹介していった。

第3学年「三勲の宝物を探そう」

校舎内外を巡って学校の歴史や特色を調べた児童は、クイズや掲示物に表したり、実物を展示したりして、学校の「宝物」を見つけていった。さらに、児童は道徳授業とその前後の活動や、学習発表会への取組を通して、学級・学年・学校の一員としての意識を高めていった。並行して行った総合的な学習の時間では、学区に数多くある史跡や文化財に足を運んで、学区内の「宝物」を見付ける目をもつようになり、お勧めの史跡や文化財をまとめたパンフレットを仕上げることができた。

第4学年『ふるさと三勲』をつくろう」

三勲学区のジオラマを見ることにより、道が細いわりに交通量が多い、川が汚れているなどの問題点を出し合った。問題と考えたことが本当かどうかを、観察や調査したり、インタビューしたりして検証した。その中でみつけた安全パトロール隊による学区の見守りや、地蔵川に蛍をはなす活動について意見を話し合う中で、自分たちが感じた問題を解決しようと取り組む地域の人々の存在に気づくことができ、わたしたちを支えてくれている学区のよさだと分かった。みんなで話し合ったことを発信することで、自分たちの力で三勲学区をよくしていきたいという意欲が高まった。

③ 国際理解に関する活動

第5学年6学年「オーストラリアの友達と交流しよう」

オーストラリア Grose View Public School と、電子メールやTV会議システムを通じて、お互いの国のことや最新のニュースを紹介し合うなど交流を進めた。

12月8日にはGV校の校長や教育関係者がオーストラリアから来校し、歓迎の歌を歌ったり、太鼓を披露したりした。6年生は後楽園で演じた能の一部を披露した。GV校校長の「伝統文化を学んでいるあなた達はすばらしい。自分たちに誇りをもって学び続けてください。」という言葉を受け、自分たちの学びを振り返り、自信をもつことができた。



① 伝統文化に関する活動



① 伝統文化に関する活動



② 地域の文化財に関する活動



③ 国際理解に関する活動



③ 国際理解に関する活動



③ 国際理解に関する活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

従来から取り組んできた、総合的な学習「ふるさと学習」をESDの視点から捉え直し、課題解決学習として指導法の工夫改善に努めている。ESDで育みたい価値観を「多様性」「相互性」「連携性」「責任性」と設定し、育みたい力を「事象のよさや問題点を多面的・総合的・批判的に考える力」「地域のよさや、伝統・文化の値打ちをとらえる力」「他者と進んで関わる力」「地域や伝統・文化と自分とのつながりを見出し、働きかける力」と設定している。6年生の卒業時には、地域を担っていくことに責任をもつ、責任性を養うことをねらいとしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年にESD担当を配置し、定期的にESD部会を開催している。ESDカレンダーの修正や加筆を検討し、毎年活動が改善されるようにしている。ESDカレンダーには、本校で設定している「ESDで育みたい力と価値観」と各教科との関連を記し、系統的に指導することができるようにしている。年度末には各学年で単元の流れや準備物、協力者の連絡先等、詳細にした実践のまとめを作成し、次年度以降も実践が継続され、さらに改善されるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末にESDアンケートを実施し、ESDに関する児童の意識の変化を把握している。「地域の神社、お寺、教会、記念碑、古墳など古くから残っている建物を大切にしている」「自分が様々なものやこととつながっていると感じる」の項目が年々高まりを示しており、地域の伝統・文化を大切にし、自分とまわりの環境とのつながりを感じることができる児童が育っていると捉えている。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られ

学校HPにより、日頃の教育活動を紹介している。その中でESDパスポートの取り組みや国際交流の様子や成果などESDの実践も紹介している。国際交流の取り組みについてはページを特設し、交流の初期から現在まで時系列に実践を紹介している。国際交流を始めたいと考えている学校から参考にしたとの声が寄せられることがあった。

た効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

6年生の能学習では喜多流能楽師の大島衣恵氏に指導を受けている。
オーストラリアとの交流では岡山大学地域総合研究センターの支援を受けている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

オーストラリア Grose View Public School と、電子メールや動画共有サイトなどを通じて、お互いの国のことや総合的な学習で学んだことを紹介しあうなど交流を進めた。

まず、電子メールでお互いの学校や国についての質問をやりとりした。その中には、6年生で取り組んでいる能に関して「なぜ能を学ぶのか」という質問があり、改めて能を学ぶ意義を捉え直す良い機会となった。その後はお互いの学校紹介の映像を送り合い、自分の国では当たり前なのが他の国ではそうでないことや、オーストラリアで日本語を学んでいる子ども達がいることに驚くなど、国際的な視野を深める交流をもつことができた。

定期的にテレビ会議システムで児童間で歌の披露や質問のやりとりをしたり、12月には交流先の校長ら関係者が本校を訪れるなど、交流が続いている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）(200字程度)

各単元において学習内容が含む ESD で育みたい価値観を想定することにより、どの授業においても ESD として求められるものを見通して指導することができた。

地域の特色や伝統文化を取り上げる学習において、児童はよさや値打ちにふれて考えをもったり、関わり方を考えたりする意識が高まり、児童の意識調査では「自分と物事とのつながりを感じる」という意識が、昨年と比較して増加している。

低・中学年では、生活科や社会科、総合的な学習で数多く校外に出かけ、人やもの、文化・歴史にふれている。高学年では、目的意識や見通しを明確にすることにより、課外で追求を進める、体験教室に参加するなどの姿が見られている。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400 字程度)

伝統文化に関する活動

第 1 学年「みんないっしょに」

第 6 学年「能学習 伝統文化をさぐろう」

地域の文化財に関する活動

第 2 学年「町をたんけん、大はっけん」

第 3 学年「三勲の宝物を探そう」

第 4 学年「『ふるさと三勲』をつくろう」

国際理解に関する活動

全学年「オーストラリアの友達と交流しよう」

平成 29 年度に準じて進めていくが、オーストラリアの交流校との交流を全学年に拡げ年間を通じて関わっていくことを計画している。各教科や行事にオーストラリアの視点を加え学校をあげて交流を深めていきたい。